

S.COAT No.2015 FHⅢクリヤー

(PRTR 特化則対応 高外観・速乾タイプ 3:1)



1. 製品の特徴

(4類第2石油類 荷姿 16L)

- 1) 作業性の良さと仕上がりの良さを併せ持つクリヤーです。
- 2) 高外観でありながら磨き性も良く、作業効率が良好です。
- 3) タレ(流れ)、ワキ(泡)、モドリ(色の変化)が発生しにくいのが特徴です。FTⅢとブレンドが可能で、乾燥と仕上がりの調整ができます。
- 4) 加熱残分44% VOC削減率43%(TXクリヤー比)
- 5) 実車塗装実績 80万台。促進耐候性試験合格。

2. クリヤー、硬化剤、シンナーの配合量と希釈塗料の可使用時間

混合比率(重量比率)			希釈塗料の可使用時間(時間)		
クリヤー	硬化剤	シンナー*	10℃	20℃	30℃
100	33	10~30	4	2	1

*シンナー希釈量は推奨量であり、気温・塗装面積により調整してください。

(注意) 30℃以上の気温では可使用時間が短くなりますので、調合後速やかにご使用願います。

3. 乾燥時間

	乾燥温度(℃)			
	10℃	20℃	30℃	60℃
指 触 乾 燥	10分	7分	5分	—
強制乾燥前セッティング	0~5分	0~5分	3~5分	—
コンパウンド研ぎ可能	8時間	5時間	3時間	15分
屋 外 放 置 可 能	不可	24時間	16時間	60分
ガ ソ リ ン O K	不可	72時間	48時間	60分
再 塗 装 可 能 時 間	—	—	—	60分
完 全 硬 化	—	7日	—	120分

※膜厚、塗装面積、諸条件により乾燥時間は若干変わります。(標準膜厚30~50μ)

4. 硬化剤の気温による選択基準 (FHⅢクリヤー単独で1年間通じて使用する場合)

硬化剤名	塗装温度(℃)			
	5	15	25	35
速 乾	○	○	△	×
標 準	△	○	○	△
遅 乾	×	△	○	○
超 遅 乾	×	△	○	○

※冬場は超速乾や速乾シンナー、春秋は標準シンナー、夏場は遅乾や超遅乾シンナーを使用してください。塗装回数は2~2.5回。ボカシ塗装は残りのクリヤーに1回目シンナーを30~50%、2回目さらにシンナーを50%添加し2段ボカシで行う。

5. 冬場は作業性を夏場は仕上がり性を希望される場合 (FTⅢクリヤーとの併用)

製品名	適正温度範囲(℃)			備 考
	硬化剤速乾	硬化剤標準	硬化剤遅乾	
冬 FHⅢ	5~15	10~15	—	5℃以下では硬化促進剤の利用も検討下さい。
春・秋 FHⅢ / FTⅢ	—	15~25	—	FHⅢ / FTⅢの併用あるいは混合で使用下さい。
夏 FTⅢ	—	20~30	25~40	夏場は遅いシンナーを利用下さい。

※FHⅢとFTⅢクリヤーの併用あるいはブレンド(混合)で季節に合わせた使用方法を行ってください。